



正しく学んで ドローン操縦

自在に空を飛ぶ鳥になったかのような目線で、自然風景の空撮を楽しめる「ドローン」。近年始める人も増えてきた。2018年から新たな趣味として楽しんでいる記者が、魅力や始め方をお伝えしたい。

スクール活用

ドローンを始めるにはどうしたらいいか。現在日本には自動車のような免許制度がなく、機体を買って許可された場所であれば原則誰でも飛ばせる。操縦方法や飛行のルールを学ぶには民間のスクールを活用するのも手だ。記者も18年にスクールに通い、マンツーマン指導で正しい知識や技術を身につけられた。

5月中旬に東京都の「ドローンスクールお台場」を訪ねると、受講生が指導を受けながら離着陸や

旋回などの操縦を確認していた。この日、3日間の講座を修了した千葉県の高校2年生(17)は「関係法規の知識も学べ、操縦もインストラクターが手取り足取り教えてくれた」と満足げ。同スクールの楠木芳彦さん(45)は「慣れればスムーズに操縦できるようになる」と話した。

高画質の動画も

操縦に慣れたら、オススメしたい撮影スポットは海岸沿いや山岳地域だ。美しい自然風景がとれる

上、電線や建物が近くになく、事故が起きにくいからだ。

撮影した写真や動画は機体に差したマイクロSDカードに保存されることが多い。着陸後にカードを抜き取ってパソコンで編集し、SNSに投稿して空からの景色を「お裾分け」するのがたまらなく楽しい。

法律守る必要

ドローンの飛行は様々な法律を守る必要がある。

航空法で、ドローンの飛行は、日中、操縦者から機体が見える範囲内と定められている。夜間などの飛行は原則として認められていない。

場所も、空港周辺や人口密集地は厳しく規制されている。皇居、首相官邸、原子力事業所なども上空飛行は原則禁止だ。

海や山、川など自然の中で飛ばすことを直接規制する法律はないが、道路交通法などが関わってくるケースがある。公園も条例で飛行を禁止している場合があるため確認しよう。



「故」の字はまだ習っていないかも知れませんが、問題文には「ぬきだし」とあるので、記事と同じように漢字で書きましょう。

- 1 海岸沿いや山岳地域が撮影スポットとして「オススメ」なのはなぜですか。記事に書かれている理由を、後ろに「～から」が続くように2つぬきだしましょう。

美しい自然風景がとれる

から

(電線や建物が近くになく)

事故が起きにくい

から

- 2 「お裾分け」とありますが、具体的には何をどうすることですか。説明した次の文章に入る言葉を5字でぬきだしましょう。

写真や動画

をSNSに投稿すること。

「お裾分け」は空からの景色をSNSに投稿することですね。空からの景色とは撮影した「写真や動画」のことを指しています。

- 3 小学生4人が、記事について話しています。記事の内容を正しく理解していないのはだれですか。すべて答えましょう。

A 君 : スクールで講習を受けて免許さえ取れば、小学生でも空撮ができるんだね。

B さん : でも、飛ばしてはいけない場所がいくつもあるのね。

C さん : 空港の近くや皇居の上は分かるけれど、公園も禁止のところがあるのはなぜかしら。

D 君 : ほかの人や、遊んでいるボールにぶつかったりしたら危ないからじゃないかなあ。

E 君 : 僕がもしドローンを飛ばせるようになったら、空から花火大会の様子を撮影したいな。

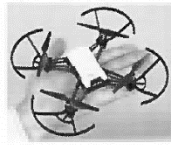
A 君、E 君



読んでみよう！

◆ミー太郎のおすすめ記事

愛知県岡崎市竜美南の市道で5月、小型無人機「ドローン」(重さ約80g)が上空から落下し、走行中の乗用車に衝突していたことが4日、県警への取材でわかった。人が人はいなかったが、県警は「ドローンがドローンを避けようとしてハンドルの操作を誤れば、重大な事故につながるかもしれない」として、現場から立ち去った操縦者に名乗



ドローン操縦者は誰？

車に落下 愛知県警呼びかけ

り出るよう呼びかけている。県警によると、ドローンが衝突したのは5月26日午後7時20分頃。ドローンは小型カメラ付きで四つのプロペラがあり、縦横10センチほどの大きさだった。現場は、改正航空法で200g以上のドローンの飛行が原則禁止されている人口密集地。今回の機体は軽量のため、県警は同法に違反しないとみているが、操縦者に衝突の状況を確認したい考えだ。



(2018年7月5日 読売新聞中部朝刊より)

近い将来、ドローンの操縦は免許制になるとされています。

事故が起きたときなど、誰が責任を取るのか分からないままでは困りますね。



学習指導要領との対応表

読むこと		構造と内容の把握（ア）	精査・解釈（ウ）
設 問	1	○	
	2	○	
	3		○